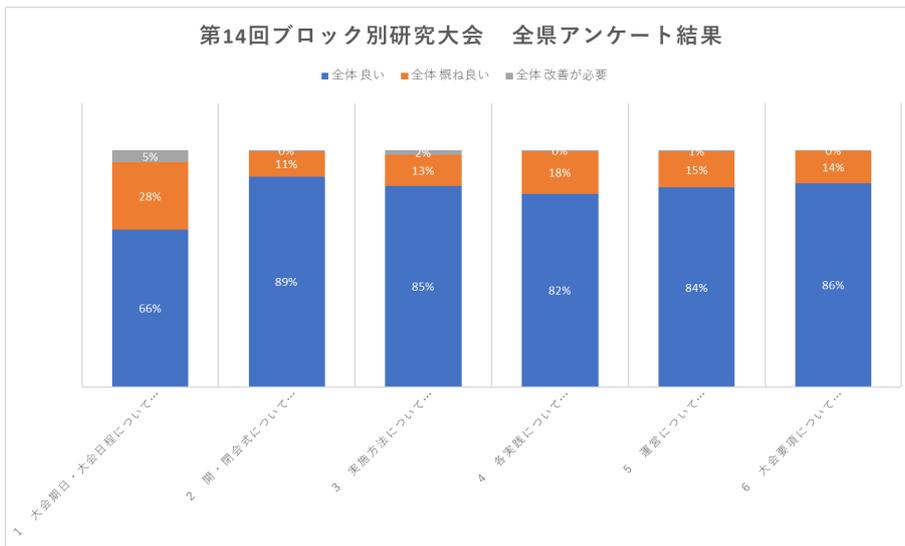


1 はじめに

第59回新潟県小中学校教頭会研究大会・第14回ブロック別研究大会アンケート結果

		1 大会期日・大会日程について ※11月1日を起 点日として、そ の日に最も近い 金曜日を大会 期日として開 催。	2 開・閉会式 について ※簡略化して実 施	3 実施方法に ついて ※オンラインで の開催	4 各実践につ いて ※研究課題との 正対性	5 運営につ いて ※参加型分科 会(少人数によ るグループ協 議)	6 大会要項に ついて ※ホームページ からの各自ダウ ンロード
全体	良い	343 66%	459 89%	439 85%	421 82%	435 84%	444 86%
全体	概ね良い	147 28%	55 11%	67 13%	93 18%	78 15%	71 14%
全体	改善が必要	26 5%	2 0%	10 2%	2 0%	3 1%	1 0%



各ブロックの参加者アンケートを集約すると、全ての項目で「よい」「概ねよい」の肯定的評価が90%を超え、6項目全体の評価は99%であった。

項目別に見ると、「1大会期日・日程」については、「よい」が66%で他項目に比べて低かった。県教頭会*1の研究大会期日は、原則として「11月1日に最も近い金曜日」であることになっているが、10月下旬の金曜日は翌日の土曜日が文化祭等の行事が予定されている学校があり開催日の変更を希望する意見が寄せられた。会員にとってより参加しやすい大会となるよう、開催日の変更も視野に入れつつ、検討課題として引継いでいく。また、開催期日を各郡市教頭会にできる限り早く伝え、会員一人一人に周知徹底を図っていく必要がある。

今年度の研究大会も、全ブロックがオンライン開催となった。オンライン開催についても、主管教頭会の尽力により高評価をいただいた。このことから、令和6年度の研究大会もオンライン開催を基本にして運営していくことが望ましいと考える。

2 研究大会を振り返って

(1) 研究内容について

第59回研究大会(第14回ブロック別研究大会)では、全公教*2の第13期研究の1年目として、統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(キーワード 自立・協働・創造)のもと、新潟県の今日的な課題を踏まえたサブテーマ「夢や希望に向かい、他者ととともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定して行った。「研究の継続性による成果と課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」を明らかにした教育実践を持ち寄り、実践の有効性や妥当性などを検討することを目指した。

各分科会では、ブロックごとの検討を経た充実した発表であったことから、一人一人が自校の現状と実践を比較しながら意見交換を行い、活発な協議を行うことができた。

(2) 分科会提案について

提案発表を軸としたグループ協議では、各ブロックにおいて発表者及び分科会運営者の尽力と参加者の主体的な参加によって、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」に示した学校像・子ども像の具現化に向けた追究ができた。また、分科会報告や事後アンケートの記述からも、各分科会で、それぞれの研究テーマに正対した協議が行われ、研究の成果と課題を共有することができたことがうかがえた。

今後も、提案者には、①「研究テーマは何か」②「研究テーマに正対する結論は何か」③「結論を支える具体的な事実は何か」という論述の整合性を一段と高める配慮をお願いしていく。

(3) 研究の基本方針（「研究の継続性」「研究の協働性」「教頭としての関与性」）について

県教頭会では、全公教の研究の基本方針を踏まえ、3つの研究の基本方針「客観的で継続性のある研究」「組織的で協働性のある研究」「教頭としての関与性を明確にした研究」を示している。

郡市教頭会の規模が大きくなると、会員全員が一緒に取り組むことは難しくなるが、毎月の教頭会の機会を活用して研究に取り組んだり、郡市教頭会の研究部（研修部）がサポートしたりというように、それぞれの組織を生かした研究が行われている。その結果、今年度の研究大会では「教頭として」の提案発表が行われ、提案地区の教頭会の取組が明確に示されたものとなっていたと言える。

分科会の成果を見ていくと、連携、組織づくり、コミュニティスクール、安全管理、教職員の資質向上等の現在の学校に求められる多様なテーマにおいて、教育活動推進における教頭に求められる資質・能力を追究した研究になっていることが分かる。

来年度は、全公教の第13期統一研究主題を受けた研究の第2年次を迎える。これまで培ってきた研究の成果を大切に、第60回新潟県小中学校教頭会研究大会につなげていく。

(4) 運営面について

① オンラインによる開催

今年度もオンライン形式での開催となった。各ブロックにおいて、地域性や組織規模等を考慮しつつ、これまでのノウハウを生かしてオンラインを活用して開催することができた。オンライン開催については、研究大会後のアンケートでも「よい」「概ねよい」の肯定的評価が98%だった。参加者からは、移動時間の削減、学校を空ける時間の短縮、出張旅費の削減等の面からも今後も継続してほしいという意見をいただいた。

要項については、令和3年度から各自で教頭会のホームページから事前にダウンロードするという形で参加者の手元に届くようにしている。そのため、参加者は大会要項を精読して、分科会の提案骨子や協議の視点を理解し、各自が問題意識をもって会に臨むことができたと考える。要項の事前ダウンロードについては、経費削減と実行委員の負担軽減の面からも高評価をいただいた。

オンライン形式での開催や要項の事前ダウンロード等、来年度に向けた開催のノウハウを確実に引継ぐとともに、反省点を改善しながらスムーズに運営できるようにしていく。

② 少人数での協議

各分科会のグループ協議では、ブレイクアウトルーム等を活用して少人数によるグループ協議が行われた。少人数での意見交換ということで、参加者が自校の現状や実践と比較しながら意見交換を行うことができた。事後のアンケートでも、「小グループでの話し合いでやりやすかった」「他校の現状について情報共有ができてよかった」等、肯定的な意見が多かった。

今後もグループ編成や分科会の時間配当等に十分な配慮をした上で、グループ協議を核にした分科会運営を継続していきたい。

3 今後の研究大会に向けて

来年度は、全国公立学校教頭会第13期統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」（キーワード 自立・協働・創造）のもと、新潟県の今日的な課題を踏まえたサブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を追究する第13期の2年次を迎える。

研究の3つの柱「研究の継続性」「組織研究としての協働性」「学校運営における教頭の関与性」をさらに充実させ、一人一人が大会に主体的に参加し、各学校及び各教頭会でなされた取組について協議し、互いの実践から学び、成果と課題を共有し、教頭としての資質向上を目指していく。そのためにも、今年度の研究の成果と課題を踏まえた上で引継ぎを確実にを行い、県内外の研究大会において、より充実した研修を推進していく。

*1 新潟県小中学校教頭会の略称

*2 全国公立学校教頭会の略称